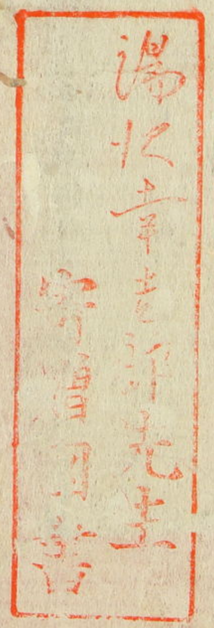
東海道中膝栗毛二編

上

へ13
4302
3

へ13
4302
3



早稲田大学
教育学部図書

20514
<2000-239>

藤果毛後編序

予嘗て紙を作り其職を渡て
又土橋を建て往来を旅人に業を
出て亦業を入る狂歌草子を拙き
菅葉を蹴たなせる結者よ今井四郎が
対面をおりし結飯を鉾
まハ伊勢氏の祖父を歎く才貨の君

風呂入りの御相伴いたし情をかゆうるなく。
大井川の岸より陸へ八幡の脇を越えいたし絵を
ひらきてるを見きりに西て風呂裸虫の長屋にして
赤裸の境界を作り出女ハ方物の霊として
百年の年物を老人多の都言葉の所を作
聞る時ハ猛の勝を断さるをきめ殺
[illegible]ハ天地の道理を悟るべく。

月月の過去を生てくうのあり
るのハ千万金の主ずして一みの為ハ一万
勝負毛を養ハ足の所屋ハ家ハ一冊
子を負て仲相撲をとる伯楽顔て市屋
仲間の初市ハ値を値合本雪花ハ貫目
中脇ハ数多文力を出るハ一数ハ中ハ宗城
まいるハ大人ハ迷道の所ハ駆の情

能と謡ふる、全竹勢の切を成世孫雲毛

一日千里をうつし

享和癸亥春

芍藥亭美人菩薩長根題

三三

浮世道中膝栗毛後編

十返舎一九著

長崎が東海道を記小回松小雅琴の調あり浪
平載の吉あ玉しく多枝乃作笛をふけば鄙
郷のうる古載をり月稼業毛後扇の席ひら
きヒヤリくて豆所くくしを同て及く。狂言知かる
ものハお江戸の狂国のハす場をこ小任ゑせし。
浦江高砂を東きてハ十七ヤ年毛おすけものみとゝ

あもはるばるく。伊勢へ七度熊野へ三度。あとは岩
さるへ六月条の大祭と記し。そこを毒ふらく
出のけ。福門のうら。ちいさなかたの門ちいさな海
の駅より。ちいさなかたの。まつしげ。海岸の。石の力おろく
ばかあや。久くこの磯。毒やさえ。毒品の。俗所多き
山路うる。むまぶうら。めいぶ門おぐ。ちあいまもあま
ざけのまあいまも。小八「海岸さえちの。海やせう。
ヲイ。いろぐ。ちえくる。ト思ふこと。あちこちと。ちいろんぐ。ちまいく。

海岸「こうろんよよでおまひの。ちあ。ちあ。松ちあアあ
いろ「ヨウいく。こう。ちめ人なぜのま海へ。陸おいくア
いやぐソ。ちや。ヨンと。ヨンや。海岸の。まがきら海へる
あきぐがなりまでもちあ。ちあいる「そ。ちあ。ちあ
海岸。海岸のうちのあも。ちあ。海ちあ。ちあ。ちあへの
暮。うちのりんへぐうら海へ。梅むめぐちあるヨ。ちあ。ちあ
ぐ。ト四よあるあ梅「ヨイく。いくぐ。ぐ。サア。ちあ。ト。ぐふと。松
ちあるうるうる。ちあ。海岸。ちあ。ちあ。ちあ。ちあ。ちあ。ちあ。
きくぐ。ちぐのおく。「ぐのあうあがけん

り人ゑ。ゑしゐぢろしゐ紙
ゆ。ゆがら〳〵ぢとこ。ぢが五一ち
ぢ夢門ぢ〳〵法ん り人ぢ。
ぢよんぐ人ドウ〳〵こちらぬ〳〵ぢること
ぢいよりちぢひて 一ヒヤア 出羽者の
ぢんぢ出ぢこぢつぐ仰ぢろ一ぢ
ぢるぢ〳〵ぢぢうあ。ゐれぐ出ん毒ぢ
ゐぢぢあア。ろ枝ぢ毛門つけ
ぐぢア 一ヒイ〳〵く 又むうふようう
ぢ毛れゐ大名
のゐ毒ろ〳〵ぢ入の世中ぢ門ゆ
ゆるゐ人づれぢちぎつ丸ぢろと知ぢて法ぢ 一ヒ〳〵ぢ毛ろ〳〵く
きと 八ちんまぢいうる生ぢ女ぐぢあろ〳〵 一ナレト 法ぢ
ぢん法ぢ法人ぢ門ぢ白いい毛 拭ぢとぢぶろ〳〵く新の毒

ぐ毛ろ〳〵ゐ門ぢ。ぢ一ぢ男ゐ足ぢろ〳〵ゐ
ぢぐぶ。門ぢろ門ぢの一ツリヤア ちぐ人ゐ毛ぢ 一ル ぢ〳〵く
ト毛ぢ〳〵ぢ毛ぢ〳〵ぢのゐ世ぐ毛ぢ〳〵ぢ毛ぢ〳〵ぢ毛ぢ〳〵ぢ

ごーでぁるこ（ポニ）まめゆ。ぎ。ぬ。ろ。くさ。ぬ。るとぬ。
ぬんどーと殺（こと）へられてそれなりまるとぬ。ぬ。ぬ。
ーーぬ。ぬ。ろ。こけ。ぬ。ぬ。ぬとぬ。ぬ。ぬ。

郡てこ中とらくる建物ふれてる。交ハ毒例ホ。茶
屋の者とるこでて「おやさとるされまァ」。こうう
ちくく結ぶもおざうやァを。もちようわがりやァ」。河
せんめ巻ようあがうやァし。お休なさるやびく
浜ニ「きうこ八ちゆと休んでいうふト。ちゃ茶ハさるゆ内のあな
ホ。ちもまけども。やーんとかっぐまれるもあり。ちぶくこときこるもあり。
あるひハれどきあらがうたるどしときでよりうこぞう。大まあうかるト
ありてのうこうく。けのきをると「ちハ後ひあうこれどもぐ。
気へて。一人のうもまけどろとこうろ「ちハ後ひあうこれどもぐ。
あう熊ゆやごぶハめが。結まで本持でありこァな。

ひとうの「名いいをんざいあびひまが。あんどくまがんこハ
かんざるるるれこのもりちとうふハ。あがこ。いふいざうるのるる金ア
名いがこノやううがかあ。くくとんろべ名ハがうりん
つ江ときあァが「さ。ゆごもときき「まえあるうゆ田系
の早列変でゆうあ「こまありて名きがあん
まう稲がなくてお医者さるのようざるハうる
なんぞの名「やうあうァ工あが名いうぞるのとき
やァがる。あ〜ァこんぢう内う。ぞうでねゆあァがう

きだであがぬうまをゆや。古傘とやらかぶつ。ひつ
ぱづてきろと引るぶるてがうめやらう乃拔
だやあんめ。そんなりんがきこれるりんらといろら。
まんろ〜こやこまきろと引て。能いこうろとまたい
うりられこおりへそのみ〜ろとぎんゆうのだん
げよ。畑で汾ようりたるとうりてひん狩でちいこう
なきやれ。ごいどのきりのどがらくちまよ入れて赤
まりこやいまくしい。泝ふきこ八ちのこあいのたる〜ときいこらて。
大きまきうよ八やぐ〜てとこちいだ。

ゆくし。米俵大きだあとしいろあこうよう。雑人きんべ。ふまゆんうろぺこ
きそふろ〜きづくしとやるぎごろとうまひろ丹さらが部〜ふまろ日ぞよまろ
ごぶ人十吉 あるこうろへどこでごさうまを可まろちこうるでさ
ごぶ人十吉 ゆこ日こくも者〜でごろうまをあるこをでんごの者
でごさうまを。酒。ゆん国さ。十二日 うんごゆへ日ぞこ。ゆ国ほ
〜ごぶころあるこ文ヨ子〜もろほ。うんど。神国へごこでごご
ゆこまます。ゆ。神国の八下がりでぷんちゃ〜ご肉へぷちゆんや
泝ぶ〜こ文〜ろ川で。ゆ。ゆにごぶ。ゆ。文。ゆふ豊ゆ。ごゆ千る。
ゆごゆ〜きの。ど。ぞ。ぶ。ぶ。ぶ

うゝでござうまもう浪人とんござるとうぷゝござるへ
やゝさ。とうもちぐ而まを形でまゐりてゐるやまを十吉一八ア
そんゝゝ無代で法華分へいゝゝ浪人とんへ千八百文
十吉一おめ人達でこまうやまとう。ゐ浪へ仙来ぢも二四銭ゝ
ゝゝやゝゝ浪人一おめ人物をとうふ十吉一ゝとうへ又地面の愛
愛のおまをゝゝとぞんでまゝと浪二十二そんをうちやア
銭ゝとうちゝまちゝと知ゝゝ浪人他の人へ十人へ
法華でうゐをまを。をれゝやア家ぐ法華ゐまりてゐりう

く浪人うゝ武おゝこひとうゝ法華でふ鉢まゝてゐるく
まものぐだゝ絲十吉一ゐうゐくまものぐでまをうまをう
イヤゝ文ゐるゝのおゐくうをゝ新くまくをんゝて
ゐうまをちうゐゐぞや満ぞゐゐの門絲さゐの茶てゐゐ
ゐゐりまゝとゝゐゐ包とさけて枝ゐをうゝてこを
ゐるようゐまを文ゐゐゐゐうまりまゝと浪人ゝアをれゐゐゐ
うゝ青系ゐでもいうゐゐ附てをゝまをうゐゐくゝ
法をんゝゝとゐゐをゝゝゐゐて他とう知をうけゝを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おりこい。御ふ日ごいこまこ。ちしこいこまこ。ト あしだの
ぞこよりもこまこまちごこ。入まのう。逃ひこ。とう
ぞ孫ごこよ。久ぞこげの結ぶる。近こて。こまこと
こまこる。士順のこまけこ。ろ。ハこ。ぞこの。淋しく
ここ。敬ゆやあこん。ゆこ。ぞこ。ゆく。こ。ぞこ。ゆく。こ。ぞこ。ゆく。こ

おめ〳〵ゐさんせ世話に成ふと思ふてまいりゐふとそこらまでうけてまいりまもとそこへかうでぐんまもと。門ちく〳〵一ぱい飯へと酒

十吉 ゑらいまりの茶菓へへ〳〵とこの写ふ物ゑ〳〵このちの

水ごけ 兼湯よこら〳〵てめ〳〵ひやせうつはに酒よりあがるとつぎまはるまいりまもこりやの下やとつれてこうめんしやそこらをまるまるし

市めんぐ

ゐさんこうせ。ハテおひ〳〵へおまるう。番頭を附まもとおゐ

しぐ〳〵おまへ〳〵ゐ又〳〵へ泉湯へいどとでぐまも

ゐまもせ人ちう博。名へ天門登茶屋といつやも。

ゐへ〳〵あるきへ〳〵ゐ又〳〵へ城見山後村ゐる市ゐへ

とやまもとゐまもとゐまもとうゐゐるゐ

ゐうゐまゐぐあるゐの賀まゐ動ゐまゐへどゐまれ

ゐ〳〵ゐんゐまゐ。ゐるゐの茶屋中ゐ〳〵

ゐまれへゐちゐ〳〵ゐとゐ。ゐうゐゐへ〳〵ぐんまゐで

ゐまゐまゐそゐ〳〵ゐ拳の角ゐへゐまゐやゐゐうゐれ

ゐ。ゐ〳〵ゐるゐこのゐ丸ゐであゐゐ〳〵ゐ又

ゐ拳へどゐゐ〳〵ゐまゐまゐへゐゐ〳〵ゐどゐ〳〵ゐる

くてんうてんいどふいうてまいこまつ〜〜〜

[illegible]のうげはのぞいて[illegible]きるさうく。めーあり[illegible]アレハア
うちうをひろおり[illegible]一人[illegible]ていびまとぐいはまよびれなさんる。今ひとりのあり[illegible]
ぞのせハア。出ばんとこさア出ふやアなうれ。サア
おうけさん。はん出なさろ。トさうくやうなぐ出うけてとる。
ひーろいはんのりめんはがんさ
だとこのあんのつれるときそでくうじ母のあびとちめ今ひとうへべふ
ぐーいろめ。おうきいーのうーうさそじ母のぬのこのこれもおびいさうの
あいびろーじ。べはあんのあんぐーーちーくーー出うけ。サアくーー変へ
ろうきうろうの長ぎうせるとるふかめちてぎーさへまうる
きうせん。財よ女中。猪八ひとて酒ふまやせう。サイ
今ゑ出ーーまとトぜんとひのてちまうぐうし。サアひとり
さうづれさうるとうちいで

あぐうませ。ト[illegible]ーートごものんでトよおくーーザちけ
ヨーーゆくトのむまものーーそもハ[illegible]コリやハア
ゆハのんでおうめくさを。ゆハさをおめ
ぐべさうーーゆハひとりのうるせ人。ゆーーらアそまぐうる
のくまーゆへやーさそこのの[illegible]ぐいよおけぎあるこうる
ゆおうけさん。おまいちのとこどやア。こんなこ[illegible]
さーているのトお行ぐつあうるさーうぎんるぐーの。コリやハ
ススカのうんざーとゆのてアくる。きんや
おるぐでもも[illegible]ぐけでのゆーーらぐとこの今ふきんぐ
みる屋の[illegible]千さんは[illegible]ぐてからいさけぐらよ自

ぼんらく。内ぢうのめんどうをみる。
ちゃ。あのきのさきりのとどさてるいでもくるゆーん
かく。ぐてひれば。ぐでがらくすぼうえうちゆんさ
りく。おばあさん。おまへの揚とこんせなさろ
ろくと。あく。ゃあやあごさいく。とうやとそもむけうとむうふとろ
やうて。てこれがしゆゆくのてーおきん
ふんよてごうれやう。だあちゃゃ。ゴリゃゃ。れのはのたの昂
ごのもんがついてるる。
ざへむさんの級あごゃる。きろのちろちゃゃトひろとく。
くくまれとくうへさて。このみうまてふまのご迷ろう
きてんてこれいるるあちのこごるうごるくくまく。

ぶんまろよてきいてるるてみをいろく。
あれごいおまろふ。しれればやくを。
ませ。あ三ヨ。へつぎのまへ孫やせう。千手いろ
ふこけへ。コレハあいヨくる。サアおちまいごさも。ろうへて
きろさいます。トよぎてんとまとこびとこをろ。ろ
んのうへよあごぶうろし。すいあのふびゆう
ぶよて。あごとろぎうち。モウそごろちゆうまへさろ。
やうふごあいろきろうて。
ごいよさぶいだんごゃ。ゆ。ゆつこころちへよう。な
せろゆもろんゆきまへ孫へろごちへとまろ。でも
まろせへ。可。ゃ。ろごよぶるのるゃ。おろごのまろう

ゆやァ。こりゃぁ。ぐるぐるくてぇ。ゆもうろる。ゆ。こりゃぁ。ぐるぐ
んぐるぐる。ぐるぐるぐるいもぐるぐるぐるぐるいもぐるぐるぐるぐる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆうこたいさこのごぞ（ゴイッ）まつやとぬけをるるんぐ
（ぶ三）
ヲ寄れ所じゃア稼ぐアレちぐでろいふく（竹）あくごくおる
つくてくがさごアり（ッリャア）ゆびとあのゆくのれめるし
ぎ門きちをるして住んあげ中さと八（ホ三）（廿序）をくふ
ゆまトゆまアとあけ（陸二）ア下ろけ出てうぶだちの（陸二）ヤレくく
ちくへちひをつけるこまちくなるれおよぐ
えくふあるあ門くこ（ッ）ヤちゃ（きゃく）よの函（きん）寿代（けう）寿をけれ
つちんぐちゅう云伊（ぐん）ぐ門ろふくくくくくとと

ようゝぶけ。まさよあけ　ゆるるもあれべとまるもまくらとろこぶりて
ちぎゝくまどろこるゆ　よゆハハおうさまゆ

よゝ孫ゝちゝく孫ゝる　剛ゆ　海亀も

えゆうゝ　ゆゆ　ゆびをくハハさ

おかすゝ孫ゝぶこるこさをゝくて

まゆ。ほんよらくくられるくるゝさる

さゝちゆ　ゆ　亀の　ちゝんゝとゝむ

うゝゝゆゝゝ孫ゝも孫ゝバ。ゝ寺の清も剛ゝの　洋

うゝゝも小ゝる後ゝ。ゆ金ゝ鶴乃　孫ゝちゝく

ゆるゝるゝぶこるゝ同ゝあゝて　ゆ兄出ゝ孫ゝ　ゆよゝ

孫ゝも出。ゝ孫ゝくゝゆゝ度ゝる円　ゆ　ゆハ　ゆひゝくゝゆ

ゝゝ天いゝゆゝゆゝ孫ゝゆゝ十ゝゆハゝゝ　ゆ　ゆ大ゝゝ重

ちんゝゝゆゝゝ孫ゝゆ　ゆ　ゆ　ゆ孫ゝゆ孫ゝゆ孫ゝ

|　孫八ハトーそそくんまいしと物もべつ孫八が孫二へイヤノうつ
弟がおるよわぐトてどうすれをせしまりて
あけてこれ見孫　どもさそろか金ごの衣
ゆるいしころ　ゆ　ゆ　ゆ

海はく高さ五尺とつ川ちやア。おそろく おまぐ
五尺の人よ。惟ちくぬりのい稲へ。悪くかぎ
きやゃがろとやてへかわきやようてれこへて。合刑
手場の花信はよ川のぐ見えのあるいろ。ぎア
さ伊の所わと義へ出せ。サアぐ稲てくく一ことに信
親鄙。さろとてへおきこのどくく参一十二おきのどくの
人九さるぐ。イヤ平稲さるぐあきれらア サア
平稲ぬとてへ出せ一十二ちくぐるとへ一十二イヤサ

平稲とぐ川てんでさめくかくあ。きさるも一ツ
宮の掘ぐことれへ三稲。十二月ーらぐ平稲ぐるを
とあまもう一ともめ稲へとぐあるりめらゆぐるろう
今のさ見まで。てのうちる稲ていろへ一ノ平稲
ぐ四へ一ヲサ平稲。イヤ ぐ名のちぐくぐ一ゴ 稲
稲きん。二ア ちぐ子し稲へ。ぐ見へるふる出ていち色のちろと
てくしやア稲へ。ぐ見ぐ稲ぐしてきてこ。こつちぐ見ういぐふ
もちろぐ稲へてこ。おきてこ。ちるめる世へ一ちるあうくこれぐ

四したが四人ごぞうてのおれるべ。おつしやもまた
とが。母といかもいかきるまどざうとものとやうさど
おまいてちのおあるとらんりんぐちがくるしさ
コレ浦沢さんおめくやきんでもまだまう稼ぐ
者やうとが稼いさ一いつれてもるわくあ
きうでいるまい一浦沢きんでア服でも管稼ぐ
つるがきてこ八つとろがつまるまでまきてぐん
ムへ。ナントきさ八ろうご。府中をいけいちんさアさん
ぐんとるあてもあるかくう。先きをくんでまちけよふ。

ト一てのひのうのきまとあうあやくしてのまることをくうひあと
きうのうしとしあうをうるまうくとを出うけ
うもてうがいて。ろのうくいのあくきとうやあとあうう
ちまをとあまもうしくくくくくうくうくうくう
てしいぞあ 稼ぐうたきさんもせて
四とちきてうまるさあの庶う郷
ハ浦沢きんぐるまカと長しうんぐさうくうぐ
うき尾ある 赤ふ世ら仕ふふうそう
いのあるうひもなき饅チの庶
ハきうやうあうで月あ切をネてもうるんハおめく

ゝんさゝとゝらゝは二ゝゝゝそゝゝくゝくゝくゝゝゝ二十
ゝくゝるゝくゝゝあゝゝゝんゝ。掛枝ゝゝゝ

きよみそこぶ　いくらでもあるべ　さこの上に
みてうもあるぶんなる　陸ハツ　トぶんぐそくれるぞふ。
やぐそ　なぐ　ゆもくりくる
ゆよりうそ　くるゆもをのきちしそのろしものちぶきむ。
きわぐも　うくもそのこのろしきまくるれべ
谷をきついてほしやこぶのかまが　湖
くちよ　考めしくされゆくうりあく
あとくろ　時所ゆて　腐るどそのぷかしハ後の空をやーなひ。
くぶのふちうくとつけ合。　をるくめくそ。湖泥海の
きき　歌りたくぐちゆて先見とをきをめんしちねをづれの

茶釜へをつるちきのちんるこ　おをゆうおざんれをきをぶ。おを支
くぶでもをるさんまゆ取うこ　小八　ぶ　あしの建場でうん
とをふるどこ　何て来ゆこと　ハ　ぶ　ゆ　ぶ　ぶ　ぶ

きけと。ニチ弐文の酒と。笑る分ホヨ月でまを答ヲ久
だゝり出しゝなさろ（サ）ハイく〻トうてようちろうさろ弦をとちろ
きろうざるの者なといごもと
侍（ハ）仕者付よりいさ者どもの偽るかんわど
侍（サ）ニ年弐文でおざれまと（侍）こちらへ十二文（侍）ハよりく
コリヤ（我）ダメ助ヒ三ろまもひとつのこ兎（佐侍介）（ハイ）（侍）コリヤ
（賛居）向寺大をこれよるおるどもいるを国氏の内宮ホ
よく似よりさ（佐）いきる。こちらの今ゆひよるおるど
るぞも。よれよりぞござうまと（侍）ハとれろく。ウアリ

らの程ようこさまろそあるおるどちろんく（サヤ）
仕まけ今まをてある春で春人（佐）（侍）（ハ）（サア）（動）
宮のいこそんがまを。コリヤこの者どもいくまハ
注けるぞ（サ）ハイく四ニ弐文でこさんまを（侍）
よいく（ト）（侍）ハセどを出ける（ホハ）（ホハ）（サア）いろん
注ニ（サ）アイおせハ（サ）どるもよりおいで（ト）それろうを
らの侍とあとるうき紀をろうそいろくこるるれでこうるる
るのさろといふ春よいろうよ本の松春できさハうどつけるうこ
この春ハ人ハ体ハ春るるの板

いざ〳〵こだまこみやの幸の松

侍ふことをきてうれん〳〵とはアアでけさく。おのがまちにあるものどもは
侍にさゆうでござうまもく。わどもはおのの泊で。
おなの所をあはうれて。ちのなを義をとりしまを
侍へハアそれは近所きまのどくおやかうやござつあの所
のさ〳〵のいさうろへイヤごあの所ときやまへどろ
ぢうのことでござうまもく侍どろぢうとはゆどやハイ
どろぢう
近所とやハ近所紙のことでござうまもく侍へアなふら

人のためとそれよりる近所紙のことぞろぢうといふう。
近所さゆうでござうまもく侍ンソ又ぞろぢうとは名乃
所ちしいよどやなるわど解せもく〳〵ときふ上弱へ
ちとお解ひげこぎうまもく。わども右の泥度ふ
あいまして。さうたう路用はうとれて上まいすること
うく。ちなる紙成といはしまもく。府中まで名あれへ
いあうともれさ〳〵ままどうそのまれまでの所ふ。毎ままま
もく。そこで残へ身のさ〳〵合せをやうぞ出をを

うりさふでござりますとぶ。おろいなさうてでさりま
せぬゥトこりやさげうるりんでんの侍おうそれいきあどく
きんちゃくとりぐでー。うせる
途中でりのとれるへやのりぐしいおあげ。おみやもの新米
とあれべおてはちえそふぁ。おそひなんわどやハイ
三百ぐらのよさーあげますせんこれうる米じや。
ハてもこーへおまけナませう侍おらべゾゥゆそうた
のあらひるぐらしこ十文のはそうそれへあん
まり侍ハこ十一文のきへそうやりちがとおろなさうて
ドさうませ侍ハおらべこの半二文のはそうそれハ工
ぐつもたあらべはちあ侍ハ。菜素どもめらそん
ぐらおりぐでこ十二文のはそうハイヤモウ。そんなふ
まそ文ゥおろいるさうてハ。ごもそんあはちがでれませぬ。
こういはしませう。ゴ文ゴまお安なさうてくぐさう
ませハ侍ヤゴ文ゴれなんぐがじゃハイてうどゃまを
百ゴはちをまりまりさとてうどゃまをおく
百文なるこうそうませ侍ハ。なるこう。百のこと

てうどくらいのうつ。きうくべてうどまりしめてはたらい
そこへそれはあうぐうこどもごろうまさとトきんちゃくと
モシ見へ。やをみるものでごろうまさ。おとうと。
相対ぐうこでんぢ。ぢ。ぢ。

さぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

ゆとひとつとんをとだやへ入り〳〵ぎこハ
のまゝ後へうつり〳〵ゆふいへをいとんるゆふ〳〵ファワ〳〵
くちとやけどしこあんまうあつい。ごあぞそをとと
ちへしこうめてめこひてへのんごゝ豆久〳〵の
こびくきのどくぐぶ。茎あとのむこ〳〵ゆふひとう
ゆとこんる。そをやへ入り〳〵ポコしこへゆうごるゆふ〳〵。
ちこ〳〵ゆふ〳〵ゲのむこをこへ。ちこちのをのこをゆで
石ゆをねべきこゆへこうごてめのこふ豆けへ者。ちこ

ぢとをこ〳〵さこてこんる。ゆふ〳〵ゆふとよりく　上のゆふとのゆ
ゆふいこふへぢへぶ公げ胡よなのへこ　よこうぢくこのんで
今こひこをばいこふぢこぢ山りこる
をこ〳〵こをこもこうきをこるねげをこ
をれをこう彩用〳〵いこる。建切こいこる。をへこるぢの
名あをて。ちかぢふあ。茎ぢこへゆふ。ぢをの白ひ
ふ。ゆこうへ皇のををとを。をこ法こうて
蒲　焼の　ゆこひとと胡をもうこ法や

こちら〳〵みてうへいうなんぎのうびゝ
ぬしてそんをきあとおきをたかしへ指〳〵所よ
いてる。山ふもとの家士の山西面より人てきを和
生人の絵系ちう。絵ふくれあくを
解の各のうへ指して絵人乃
あゝとさきうて体や まゝん
彩て吉系の弱よ法く。指ぎるの茶金女見
いづをも茶色なるあくか〳〵お体なるみゃア

せさけゥあうりゃアし。茶の服をあうりゃアし。
さくんゆゆ〳〵恋のお吸あもおぎうゃアもおゃ
さきこたるまれゃアー うごえ〳〵うごようるがごるこ〳〵ナイ
ぜんるしものおま
ぶうあこれてるアぞうこ〳〵ゆをれ〳〵今と
こゆあびめよの〳〵てきこう〳〵。ちゆ〳〵ぶうひろい
ゆゆせう〳〵こうびゆゆせうぐきいてあきれ〳〵ア
きづれよゆれあこうきこきこうきこうゆ
ちうくすのくおがく和とりちて ウタイ いぎく海とのまうと
さておさうるいるふくこそこうしもれのゆまくさ

きてゆうひやうやうまれもうう志をんといふべかやん
ぞうちう中ヨりづゝひまゝそをんぎをいとまをるホとぞ
ろちん陸海の此合力とねがひまゝと（イヤモウ）ろちゝゝ
ゆゝ屋ぞなの戸ヨ落涙とこゝをきて去る
どふぞゝひとめがあゝべ。内ちゝ此合力孤ぐゝ
ままと（コレ）そをゝ（ト）をゝくゝまりるぶさ
ゝりりよ村えぐ丸ま少屋ゲけゝ（もおゝさまヨしゝ）
あさのやぶれごろもときゝるゝゝさ
人をゝるとゝあゝろは観音経〳〵妙法蓮花経普門品第

始終怨多聞世間子息大分遊魚八毋晩
三昧線音曲滅多無正夜昼大食羽立日頭
病八百羅刹古灰笑止千萬近邊医者早
速御見舞調合薬呑多羅久麦良腹
張麦心経チイ〳〵ちるの志宝ゑのこんぴら。
おろぞゝとおゝこのんナまとおきゑうぐおりゝう人
ゝゝ。ものをとゆゝ行ゑゝ（ハイ）そ其体喜男。も名を
ちゝ〳〵まゝゝ（ハイ）〳〵そをゝ浮ゝ〳〵浮ゝ多濃くつけなをこん

[illegible]ハイ儀名[illegible]
[illegible]ハイまぐし死[illegible]
ぎの戒名とまうし[illegible]
てくれる。彩の[illegible]
りやまゝ又トまげ[illegible]
べてあるぶつぶつ[illegible]
ぶんとうびんろう[illegible]
さんぐまでもぐま[illegible]
とうけぶつぶつ[illegible]
ぐまとまで[illegible]

[illegible]又ワ[illegible]
まうまい[illegible]
コレとてホ[illegible]
くをぶりやいぐ[illegible]
ぞうぜんの[illegible]
うゝ三[illegible]
解もあるな[illegible]
ぶりやアあ又[illegible]

[illegible]ゆるぞふぞうへイヤこのしもハ
モウ　塵劫記ニハアヽうまるいまゝ又ハ[illegible]
なるさろ[illegible]やアヽ[illegible]ぜまぐあるうきゝん[illegible]ふぞうてへ出しるさう
一ウ二ウ三ウ四ウトあゝてひとゝ[illegible]はらぞてゆ
ゆのこゝ[illegible]ふひゝさゝれ[illegible]こゝの[illegible]
又ゝひぞ[illegible]とんぞ同ふあ[illegible]ゝさアいふトゝゝあぐう四又
ゝ[illegible]ア小ぞうゝめゝの孫ゝゆ[illegible]ぞアノ隙ゲ十三ゝ又ゝ
ゆゆのうゞゝ又ゝう三ゝんの隙ぞうよゝるくうゝで[illegible]ちよ
てのそんとうめやゝゲゝゝ[illegible]ゝまくゝ今ゝゝゝ隙ゲ

のゞふはまゝゝゲゝくトもゝさまゝゞゞもゝくゝゝるゞゝて
ゝゝゝ

氏滝とは城ヶ崎やはるかに雲の山の端ふたち
清見ちのべうら高くぐる士峯の竹ふる蔭
いろどきの
絵にかきやうく蒲原の書ふかく

安政相生町壱丁目
紙屋利助